

**【授業の到達目標および概要】**

本講義の目的は、現代世界の構造的転換を背景に、地球規模の栄養課題を総合的に考察し、栄養学の幅広い視野にたつて精深な学識を得るというディプロマ・ポリシー（DP）に関連する。そして、本講義を通じて、以下の能力を修得することを目標とする：

- ・国際栄養データの批判的分析能力
- ・食事ガイドラインの科学的根拠の評価能力
- ・食環境政策の有効性の検討能力
- ・健康的かつ持続可能な食事に向けた政策提案能力
- ・地球規模課題に対する栄養専門職の役割の理解

第二次世界大戦終結から 80 年を迎える節目にあたり、気候変動、地政学的緊張、経済の分断化、パンデミック、非感染性疾患（NCD）の増大といった相互に関連する危機の中で、栄養を位置づける。

今日の栄養不良は、低栄養、微量栄養素欠乏、過体重・肥満、食事関連 NCD など、多様な形態をとっており、特に、学童期・思春期において肥満が低体重を上回るという歴史的転換点を迎えた。本講義では、国際的データおよび WHO ガイドラインを基に現状を分析し、安全で健康的、公平かつ持続可能な社会の実現に向けた政策とフードシステム変革を検討する。

**【授業計画】** <英語併用可>

以下の主な講義テーマを 7 回の授業（①～⑦）で取り上げる。

1. 国際栄養ガバナンスの歴史的展開
  - ・FAO、WHO、Codex、ICN、SDGs の展開
  - ・国連「栄養の 10 年」
  - ・グローバル化から分断化・多極化への移行
  - ・持続可能な開発における栄養の中心的役割
2. 食と栄養に関する世界の現状
  - ・飢餓、食料不安、健康的な食事の負担可能性
  - ・子どもの発育障害、消耗症、過体重
  - ・肥満と NCD 負担の増大
  - ・COVID-19 および気候変動の影響
3. 健康的な食事：科学的根拠とガイドライン
  - ・糖類、食塩、脂質、トランス脂肪酸に関する WHO 勧告
  - ・FAO/WHO による健康的な食事の基本原則
  - ・持続可能な健康的食事とプラネタリーヘルス
  - ・GBD 研究および最新エビデンスの示唆
4. 食環境整備と政策介入
  - ・砂糖入り飲料（SSB）課税
  - ・トランス脂肪酸規制

- ・食塩削減政策
  - ・子どもを守る食品マーケティング規制
  - ・フロント・オブ・パック表示および財政政策
  - ・WHO 肥満対策加速プラン
5. フードシステム変革と政策の一貫性
- ・国連フードシステムサミットの取組と進捗
  - ・生産・貿易・流通・消費行動を横断する政策の整合性
  - ・気候変動と栄養、One Health アプローチ
  - ・資金調達と公平性の課題

#### 【授業外学習】

Reading list に掲載され文献、学術雑誌、新聞記事、ならびに WHO、FAO、UNICEF 等の関連機関のウェブサイトなどを参照し、世界の栄養・食料問題に関する最新の課題や動向を事前に把握する。主な授業テーマの中から一つのトピックを選択し、第 2 回目以降の授業内で 10～15 分程度のプレゼンテーションを行う。さらに、当該トピックについて授業での議論を踏まえ、レポートとしてまとめ、提出すること。

#### 【成績評価の方法・基準】

成績は、選択したトピックに関するプレゼンテーション、討論への参加状況、および提出レポートの内容を総合的に評価して決定する。

#### 【教科書】

特になし

#### 【参考書】

Reading list

1. The State of Food Security and Nutrition in the World (SOFI) 2025, FAO, IFAD, UNICEF, WFP & WHO
2. Global Burden of Risk Factors (dietary risks), 1990 - 2021 (Lancet), Global Burden of Disease (GBD) 2021 Risk Factors Collaborators
3. Feeding Profit: How Food environments are Failing Children, UNICEF (2025)
4. WHO guidelines on marketing (2023) or fiscal policies (2024)
5. EAT-Lancet Commission 2019 and EAT-Lancet Commission 2.0
6. Lancet Commission on Ultra-processed foods (UPF) (2025)